

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 21 No 4

237号

平成25年 4月 5日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

風疹、今そこにある危機!

院長

昨年から全国的に風疹の大流行が続いていることは、ニュースなどでご存知のことと思います。

昨年の風疹報告数は2353例(国立感染症研究所)となり、過去5年間で最も多く、今年になってもさらに患者数は増加し3月末までに昨年の報告数上回るような、かつてない大流行の様相を呈しています。従来の流行は子どもが中心でしたが、最近の統計では7割以上は男性で、うち20代~40代が8割を占めています。成人男性の罹患が増えている理由には、1994年以前は対象者が中学生女子に限られていたこと、25-33歳の男性は制度移行期で接種率が低かったことも関係しています。平成23年度の感染症流行予測調査によると、30代から50代前半の男性の5人に1人は風疹の免疫を持っていない、20代の男性は10人に1人は免疫を持っていませんでした。

それでは、風疹とはどんな病気、何が問題なのでしょう。風疹の原因は風疹ウイルスで、幼稚園児や小学生を中心にかかります。潜伏期は2~3週間とされ、不規則な間隔で局地的に流行しやすく、春から夏のはじめに多くみられます。せきやくしゃみに飛沫と接触で感染しますが、麻疹や水痘ほど伝染する力は強くありません。かかったのに症状が出ない場合(不顕性感染)が20~40%と多いのが一つの特徴です。症状は、発熱、発疹とリンパ節腫脹(耳介後部、後頭部、頸部)が三兆候です。発疹は、バラ紅色で小さく、一つ一つが孤立していて、一見きれいですが、かゆみがあるのが特徴です。顔面から出はじめて、体、手足へと広がりますが3日ほどで消えてしまいます。麻しんに似ていますが比較的軽いため、「三日はしか」とも呼ばれています。リンパ節のはれは、わりと大きく、押すと痛み(圧痛)があります。発熱は、約半数にみられ、2~3日で下がります。そのほか、結膜の充血、のどの痛み、せき、頭痛など、かぜに似た症状がみられることがあります。大人が風疹にかかると、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどくなる場合があります。

合併症には、意識の変化やけいれんをとともなう髄

膜脳炎(5000人に1人)や出血斑、歯ぐき、鼻などから出血がみられる血小板減少性紫斑病(3000人に1人)があります。

典型的な場合は比較的診断は容易ですが、とくに流行期以外での非典型的な例では診断がむずかしく、小児科医泣かせの病気の一つです。過去の女子中学生のワクチン接種時の研究では、“罹患した”の半分は抗体価の上昇が無く(罹患していない)、“罹患していない”の半分で抗体価が上昇(罹患していた)というデータがあります。その意味は、症状だけでの診断が難しく、確定のためには抗体価の測定が必要ということになります。

症状が比較的軽い風疹ですが、大きな問題は「先天性風疹症候群」です。妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障がいを「先天性風疹症候群」と呼びます。残念ながら、この病気に対する治療はないため、親御さんもお子さんも、生涯にわたる大きな負担を背負うこととなります。風疹にかかった妊娠時期により違いがあります。報告によってまちまちですが、特に妊娠12週までにかかった場合、その可能性が高い(25~90%)ことが示されています。

しばらくの間、ほとんどみられない時期もありましたが、近年風疹の増加に伴い昨年10月以降3月末までに8人の「先天性風疹症候群」が報告され大きな社会問題になっています。

感染者が増えれば、当然のことながら先天性風疹症候群も増えてしまうのです。「先天性風疹症候群」から子どもを守るためには、子どもたちはもちろんのこと、女性だけでなく、とくに30-40代の男性のワクチン未接種者及びかかっている人、かかったかわからない場合も是非ワクチン受けてください。

現在子どもたちでは、MR(麻しん・風しん)ワクチンの2回接種を行っています。風疹の罹患やワクチン接種を受けた場合でも、新しく接種することには何ら問題はありません。ワクチンは自分自身だけでなく、家族や社会を守ることも目的のひとつであり、予防接種を受けること(受けさせること)は、大人としての努めと考えましょう。お父さん、一歩前に踏み出して風疹ワクチンを受けましょう。

先天性風疹症候群を防ぐ
自分&家族を守るためにワクチン接種を!

妊婦の夫、子供および
その他の同居家族
10代後半から
40代の女性
※特に妊娠希望者または
妊婦する可能性の高い者
出産後すぐの女性
※妊娠初期に抗体価が低い
妊娠:1回以下と
妊娠前:1回

風疹にかかったことがない人 接種歴がない、または不明な人
ワクチン接種を!

さらに・・・
もし、麻疹ワクチンを1歳以上で
2回受けたことがない場合

MRワクチンの接種を

麻疹も風疹も予防できます。

4月のお知らせ

・栄養育児相談
4月10、24日(水) 13:30~
栄養士担当 参加無料

『がんばろう! 宮城 がんばろう! 日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は8通のメールを頂きました。まずは青葉区の〇〇〇さんです。題名が「かわむら先生のファンより」となっていたので、こちらとしても少々恥ずかしいので、あえて匿名にしました。「子育てしながらの、久々の就職。そして子供の熱で前なら『明日病院行こう』と思えた私も、やはり『仕事どうしよう、保育室どうしよう』と頭がぐるぐる……。3」と以前届いた、かわむらクリニックニュースメールを読んだら『3月20日北部診療所当番医』『なにこい〜?かわむら先生がいるの〜?』と...迷わず栗原の実家から急いで帰宅し受診しました。違う病院で、お会いするかわむら先生に少しドキドキ。あっ、確か昔、一番町でお会いしたっけ。『堺雅章風の素敵なおじさま』と、今でも思い出されます。話はそれでしたが、かわむらクリニックニュースが再び届くようになり、かなり心強いです。どこまでも先生の追っかけをしようと心に決めて〇〇〇家でした。



そうですか、Mail Newsを見て、わざわざ栗原から来てくれたとは、驚きです。“違う病院でお会いするかわむら先生に少しドキドキ”“堺正章風の素敵なおじさま”なんてかかされると、ちょっと恥ずかしい限りです。家族皆さんで追っかけしてくださいね(笑)。

7月から水痘・おたふくワクチン公費助成開始

仙台市では、仙台小児科医会並びに仙台市医師会の要望により、上記ワクチンの公費助成が始まります。接種は7月からですが、概要と考え方についてお知らせします。

・公費助成の概要

対象:1歳~3歳未満
開始時期:平成25年7月
助成額:5230円(予防接種委託料分)
負担額:水痘 4000円 おたふく 2500円
周知方法:市政日より、ポスター、個別通知



詳細は、仙台市HP“水痘・おたふくかぜ予防接種の費用を一部助成します”をご覧ください。

仙台市 HP ワクチン助成

・助成に関するQ&A

Q-1:7月から開始ですが、助成されるのを待ってもいいでしょうか。

A-1:待たないで、1才を過ぎたら接種するのが原則です。4月から7月の間にかかってしまったら意味がありません。

Q-2:既に1回接種していますが、2回目も助成されるのでしょうか。

A-2:対象年齢であれば、平等に1回接種が助成されます。今

回の助成は、1回目でも2回目でも、1回のみ助成されます。2回接種に関しては、次のQ&Aを参考にしてください。

Q-3:水痘・おたふくワクチンは2回接種した方がいいのでしょうか。

A-3:水痘・おたふくかぜ予防接種では、近年2回接種が推奨されています。特に水痘ワクチンでは、接種したにもかかわらず、かかってしまうことも珍しくはありません。このような状況をPrimary Vaccine Failure(PVF:一次無効)と呼んでいます。そのような理由から、2回接種することが望ましいとされています。

Q-4:水痘・おたふくワクチンの2回目の接種時期は、いつでしょうか。

A-4:水痘ワクチンの2回目接種に関する見解があります。
・18ヶ月~2歳未満(日本小児科学会)
・15ヶ月~5歳未満(国立感染症研究所)
おたふくワクチンの2回目接種に関する見解があります。
・5歳以上~7歳未満

当院では水痘の2回目は、接種後6ヶ月で2歳までに接種することを勧めています。おたふくの2回目は、今回の対象年齢から外れるために接種適応は無いと考えています。

Q-5:何科でワクチンを受けても、助成されるのでしょうか

A-5:診療科によって助成の有無が規定されるものではありません。しかし、ワクチンの専門家は小児科です。ワクチンの副反応はゼロではないため、できるだけ小児科単科(小児科専門医)で接種することを勧めます。

お陰様で、開業20周年

2月20日で、開業20年を迎えることができました。20年も長きにわたり診療を続けられてきたのも、患者さん含め多くの人たちの支えのお陰です。

多くの子どもたち、そしてお母さんたちの協力を頂きで記念紙を発行することができました。

メールや作品等をお寄せ頂いた方には、開業20周年記念品を近日中にお届けする予定です。さてどんなものなのか?楽しみにお待ちください。



Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

Mail News は、420人を越えるお母さんが登録。右上のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

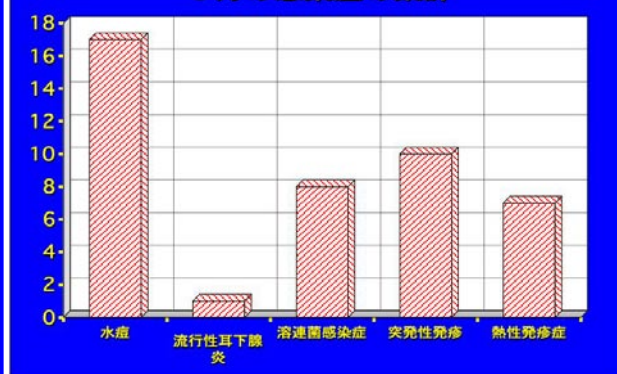
新しい情報発信として Twitter、Blog「子どもクリニック四方山話」、Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください!

Mail News かなり戻ってきます。届かない場合は kodo-mo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。



MailNews

3月の感染症の集計



水痘が増加している以外に特別流行している病気は有りません。グラフに示していませんが、インフルエンザは終息しました。大きな流行では有りませんが嘔吐下痢症(感染性胃腸炎)があり、ほとんどはロタウイルスです。



Twitter



Facebook



Blog

編集後記

20周年記念紙発行したら、あっという間に次の新聞作りが始まりました。記念紙では、本当に多くの方々から、あたたかいメッセージや手紙、作品まで寄せて頂き、本当にありがとうございました。紙面でも紹介しましたが、20周年記念ノベルティ・グッズを作成中です。絶対他では手に入らないものを準備しています。ちょっとした期待を込めてお待ちください。歴史を共有できるのがかかりつけ患者さんであるということ改めて感じることができました。



麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』 『お母さんクラブ』 現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!